

節目の2016年に向け「ステップの年」に 事業の全体フレームをグランドデザイン

ツーリズムEXPOジャパン推進室は5月28日、東京・霞が関の全日通霞が関ビルで「ツーリズムEXPOジャパン2015」の概要発表記者会見を開催しました。ツーリズムEXPOジャパン実行委員会の委員長を務める田川博己JATA会長は、観光総合イベントとして2回目を迎える今年について、「『ステップの年』だった2014年に続く『ステップの年』と位置づけ、2020年の東京五輪に向けて節目の年となる2016年を「『ジャンプの年』とすべく決意を表明しています。

昨年の「ツーリズムEXPOジャパン (JNTO)」が主催する「VISIT JAPAN」は、「JATA旅博」と日 JAPAN トラベルマーケット」と本観光振興協会の「旅フェア日本」を 「VISIT JAPAN MARKET」を統合した観光総合イベントとしてスタートも同時開催されました。海外旅行と国内旅行、訪日旅行の振興に向けて、旅行業界や観光産業だけにとどまらず、他産業や地域の方なども結集して、国際社会における「観光立国ニッポン」を国内外に発信する形を実現しています。会期中の来場者数も15万人以上を記録し、アジアをリードする世界最大級の観光産業イベントとして、内外から高い評価を受けました。



「ツーリズムEXPOジャパン2015」のキービジュアルポスターを囲む見並理事長、田川会長、ツーリズムEXPOジャパン推進室の池田信之室長（左から）

田川会長は、今年の「ツーリズムEXPOジャパン2015」では、東京五輪が開催される2020年も視野に入れつつ、新しいプログラムや取り組みに

積極的にチャレンジし、事業の全体フレームのグランドデザインに取り組んでいることを紹介。2020年への中間地点となる節目の2016年は、リオデジャネイロで「東京」が次回の五輪開催地としてコールされ、全世界の耳目が日本に集まることから、「ツーリズムEXPOジャパン」を大きく飛躍させ、観光産業を取り巻く関係者にとつて欠かすことのできない観光総合イベントとして確立することを目指す考えを強調しています。

また、ツーリズムEXPOジャパン実行委員会の副委員長を務める日本観光振興協会の見並陽一理事長は、「今年5月に3000人規模の日中観光文化交流団が訪中するなど、アジアにおける観光交流が大きくなっている中で、『ツーリズムEXPOジャパン』に対する各方面からの期待も高まっている」と指摘。「国際観光フォーラム・シンポジウム、アウトバウンド・国内商談会とメディアミーティング、展示会、顕彰事業、ジャパンナイトという5つの事業の柱を太く

して、『観光立国日本』をしっかりと発信していきたい」と意欲を示しました。

田川会長は、2015年の国際観光フォーラムが、国連世界観光機関（UNWTO）との連携を図る「Tourism and Culture」旅と文化」をテーマとし、文化遺産の保全と地域の振興に寄与するツーリズム産業の発展について議論を深めることに加え、今年から「ジャパン・ツーリズム・アワード」と名称を変更し、様々な分野で観光産業の発展・拡大に寄与する団体・組織・企業・個人を表彰する顕彰事業で、UNWTO部門賞も設定して国際機関との連携を通じたグローバルな展開を図ることも言及。2013年に締結された包括的パートナーシップ協定に基づいて、JATAとUNWTOとの協力関係が着実に深まっていることも指摘しています。

さらに、ツーリズムEXPOジャパン事業を通じた新たな地域連携プログラムとして、今年からプレミアム・ destinations ネーション・パートナー協賛カテゴリーも新設されており、海外や国内各地域によるプロモーション施策などと連動し、「ツーリズムEXPOジャパン」の集客牽引力を活用することで、パートナーとなる国・地域や取り組みへのプロモーション効果を最大化するプログラムとして展開される予定です。

田川会長「観光総合イベントとしての確立を目指す」



田川会長「観光総合イベントとしての確立を目指す」